

## 第12章「施しの波羅密」

ちょっと復習を…

### 施しの区別

- 1) 財施 (ごいせ) = 他者の身体を堅固にする = 他者の今生の楽を成就する
- 2) 無畏施 (むいせ) = 他者の命を堅固にする = 他者の今生の楽を成就する
- 3) 法施 (ほうせ) = 他者の心を堅固にする = 他者の後生の楽を成就する

### 無畏施の自相

無畏施は、盗賊の怖れと、猛獣の怖れと、病と水などによる怖れの帰依になるのです。そのようにまた『菩薩地』に「無畏施は、獅子と虎と摩羯羅魚と、国王と盗賊と水などによる怖れの救護したことであると知るべきです。」と説かれています。

無畏施を説明しおわりました。

摩羯羅魚 (まかつらぎょ? まからぎょ?) 想像上の海棲動物。ワニやイルカに類するものとされたり、山羊の頭と前足がついた巨大な魚の姿とされたりすることもある \* 4

摩竭 (まかつ) 海の怪物の一種といい、ワニまたはサメかとされる。あるいは想像上の大魚の名とも \* 1

### 法施の自相

法施には四つの義—

- 1) 施しの対境と、
- 2) 思惟と、
- 3) 法そのものと、
- 4) 法を説く方便です。

そのうち、施しの対境は、法と説法者を敬う、法を欲しい者たちに、施すのです。

思惟は、悪いものを捨てて、善いものに依るのです。

それもまた、悪い思惟を捨てることは、利得・恭侍と称赞・名誉など財物の思惟を離れたことにより、法を説くのです。そのようにまた『聖撰』に「財物なく、衆生に対して法を教授する。」と説かれています。『迦葉所問経』にもまた、「淨らかであり財物の無い心により、法施をする者は、勝者により称赞される。」と説かれています。

善い思惟に依ることは、悲 (あわれみ) により駆り立てられて法を説くのです。そのようにまた『聖撰』に「苦を尽きさせるために世間に法を施す。」と説かれています。

法そのものは、経などの義を誤らず、顛倒 (てんどう) せずに説くのです。『菩薩地』に「法施は、無顛倒に法を説くことと、正理により法を説くことと、学處を正しく受持させることです。」と説かれています。

- 思惟（しゆい） ①考えをめぐらすこと ②対象を分別すること \* 1  
悲（ひ） ①衆生に対するあわれみ、いとおしむ心 ②四無量心のひとつ。衆生の苦しみを除くこと \* 1  
義（ぎ） 真理 道理 \* 1  
顛倒（てんどう） ①正しい道理が失われて、誤っていること ②特に一切世間の無常、苦、不浄、無我であるという真理に反する見方をすること。常・楽・浄・我という誤った見方（四顛倒） ③心に迷いを生ずること \* 1

おお！

法を説く方便は、法を請う者に対して直ちに説明すべきではありません。『月灯経』に「法施のために、もしあなたに対して請うのなら、すばらしき人よ、私は学んでいないといっではじめにその言葉を述べるべきです。」「直ちに述べるべきではありません。器を観察してからすべきです。もし器と知ったなら、請われなくても講説すべきです。」と説かれています。

よって、法を説明するときもまた、清潔で好ましい地域において説明すべきです。『妙法蓮華経』に「清潔であり好ましい土地に、広い座を準備し設けて、」と説かれています。そこにおいて法の座に坐って説明すべきです。すなわち、「様々な造られた綿布を善く広げて、脚台のある座に坐って」と説かれています。

自己もまた沐浴すべきです。衣をよくまとい、清掃をして、行儀を慎み、法を説明すべきです。そのようにまた『海慧所問経』にもまた、「説法者は、清掃し、行動を慎み、洗淨し、衣をよく纏うべきです。」と説かれています。

そのように周囲が坐って、座に坐ったとき、最初に障礙（しょうげ）により妨げられないために、魔の能力を破戒する真言を唱えるべきです。『聖海慧所問経』に、すなわち、

TADYATHA SHAME SHAMA WATI SHAMITASATRU AM KURE MAM  
KURE MARA ZITE KAROTA KEYURE TEZO WATI OLO YANI VISUDDHA  
NIRMALE MALA PANAYE KHUKHURE KHA KHA GRASE GRASANA O  
MUKHI PARAM MUKHI A MUKHI SHAMITWANI SARVA GRAHA  
BANDHANANE NIGRIHITVA SARVA PARAPRA WADINA VIMUKTA  
MARA PASA STHAVITVA BUDDHA MUDRA ANUNGATITA SARVA MARE  
PUTSA RITA PARISUDHE VIGATSANTU SARVA MARA KARMANI.

海慧よ、これら真言の句を前に行って、法話をしたなら、彼の周囲 100 ヨーヂャナ以内に魔族の諸天は、悩ませるために来ないでしょう。来るもの彼らもまた障礙をすることができません。

それから、法の言葉の関係の明瞭で相応しいものを、説明すべきです。法施を説明し終わりました。

**ヨージャナ 長さの単位**

俱舍論の記述などでは普通1 ヨージャナを約7km と解釈する。

100 ヨージャナ=700km (日本の本州全部入るくらい?)

**魔 (ま)** 〈魔〉とは、死あるいは殺を意味するサンスクリット語 mara に相当する音写。もともと「魔」という漢字はなかったが、mara の音写のために作られたという。〈魔羅 (まら)〉ともいう。(中略) 第4の〈天子魔〉は外的世界を支配する一種の神としての〈魔〉であり、〈他化自在天子魔 (たけじざいてんしま)〉と名づけられる。この他化自在天は欲界の最上部たる第六天であり、魔界というよりはむしろもろもろの快樂をもたらす善美を尽くした楽園である。(後略) \* 3

**魔王 (まおう)** 六欲天の第六天 他化自在天の主のことで、天魔波旬 (てんまはじゅん) とも呼ばれる。彼は多くの眷族を持つとされる。釈尊の成道直前の降魔 (ごうま) は、心の中に住むこの魔王の軍勢を降伏させたとされる。 \* 3

**障礙 (しょうげ)**

相手をよく観察し、場所を選び座を作り、自身を清め場所を清め…  
なんて細やかで丁寧なんでしょう！

**施しを増長させる方便**

施しを増長させることは、それら三つの施しは少しであっても、多くに変える方便があるのです。『菩薩藏経』にもまた「シャーリプトラよ、賢者の菩薩は、少しの施しをもまた多くするのです。1) 智慧の力により殊勝にするのです。2) 智慧 (はんにゃ) の力により広大にするのです。3) 廻向の力により無量にするのです。」と説かれています。

そのうち、「智慧の力により殊勝にする」ということは、三輪 (さんりん) が全く清浄 (しょうじょう) だと知るのである。施す者も幻術のようなもの、施し物も幻術のようなもの、施す対境も幻術のようなものです。

施しの多くの福德が生ずるために、「智慧の力により広大にする」ということは、どんな施しを与えても、最初に一切有情を仏陀の地に立たせるために与える。中間に施し物についてこだわりがない。最後に施しの異熟 (果報) について願いを離れているのなら、施しの福德を広大に得るのです。『聖撰』にもまた「施しを与えてから、事物に住することが無い。彼はいつも異熟を願うことがない。そのように施す賢者はすべてを施す。少しを施したのに多く無量になる。」と説かれています。

**智慧 (ちえ)** 対象を正しく捉えて、真実を見極める能力 \* 1

**殊勝 (しゅしょう)** 特にすぐれていること \* 1

**三輪 (さんりん)** 布施における施者と受者と施物の三つ。この三つに空を観じて執着しないことを三輪清浄という \* 1

般若（はんにゃ） 一切の事物・道理を明らかに捉える、悟りの智慧 \* 1  
廣大（こうだい） 広く大きいこと。また、極めて勝れていること \* 1

智「恵」のほうを「はんにゃ」と訳していますね…

「廻向の力により無量にする」ということは、それら施しは一切有情のために正覚に廻向したなら、無量になるという意味です。よって、『菩薩地』に「果を顧みて施しを与えることもしない。施しすべてを無上の正等覚に廻向する。」と説かれています。

廻向することにより、ひたすら増長するだけでなく、無尽にもなるのです。『聖無尽意経』に「尊者シャーリプトラよ、例えば、一滴の水が大きな海に落ちたのは、劫の終極まで失われず、尽きることが無いのです。同じく正覚に廻向された善根は、菩提の心髄にあるまで失われず、いささかも尽きることになりません。」と説かれています。

無量（むりょう） 限りがないこと \* 1

いかに若き比丘といえども 仏の教えに勤しむならば  
かれはこの世を輝かす 雲を離れた月の如くに （法句三八二）

#### 参考資料

- \* 1 例文 仏教語大辞典 石田瑞麿（いしだみじうまろ）著
- \* 2 仏教要語の基礎知識 水野弘元（みずのこうげん）著
- \* 3 岩波 仏教辞典 第二版 中村元（なかむらはじめ）他編集
- \* 4 ネット検索 ウィキペディア他